IAMAS

Annual Report

2011—2013

産業・地域連携成果報告

IAMAS

Annual Report

2011—2013

Greeting

ごあいさつ

情報科学芸術大学院大学（IAMAS）では、開学以来、芸術と科学の融合を掲げ、広範囲の分野で活躍する表現者と研究者の育成を行ってまいりました。また、2011年には、IAMASの情報科学技術と文化研究の成果を広く社会に活かし、産業や地域と連携して様々な貢献をすることを目的として産業文化研究センター（通称RCIC）を開設しました。以来、RCICを窓口として、地域や産業との連携を積極的にすすめております。連携の機会は年々増えており、内容もプロダクトの企画・デザイン、モノづくりの提案、アートイベントの企画・実施、地域コミュニティのデザインなど、幅広い分野と視野へと広がっています。連携先も、地元ベンチャー企業、県内外の多業種の企業、県や市、幼稚園から大学までの教育機関、美術館など、多岐に亘っております。

IAMAS Annual Report 2011 — 2013 では、3年間の代表的な産業および地域連携の事例をまとめました。是非、ご覧いただき忌憚のないご意見を賜われば幸いです。さらに、2014年4月よりソフトピア地区へ移転しますが、これまで以上に産業や地域との関係を強め、連携の充実と地域貢献を図っていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

IAMAS産業文化研究センター長
金山智子

Contents

目次

2011年度

日本写真印刷株式会社共同研究 8

【ぎふ】ワインプロジェクト 10

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会 12

2012年度

恵那市岩村プロジェクト 16

生成音楽ワークショップ第7回

ジョン・ケージ、「失われた沈黙を求めて（プリペアド・トレイン）」（1978/2012） 18

肢体不自由児のiPad使用時における入力操作の補佐をする装置の開発 20

硬式野球ボールの縫い目判定 22

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜　公開講座 24

2013年度

メディア・地域・鉄道プロジェクト 28

幼稚園／保育園／幼保園のためのICTに関する研究 30

豊田中央研究所共同研究 32

ものづくりオープンメソッドプロジェクト 34

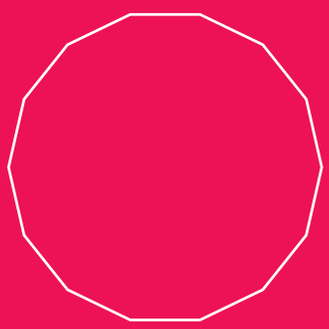
美濃のいえプロジェクト 36

アートフルタウン大垣2013「進展―IAMAS work in progress―」 38

IAMASイノベーション工房［f.Labo］ 40

連携事例　＋　IAMAS関連イベント　2011―2013　全リスト 44

2012―2013　IAMAS産業文化研究センター（RCIC）スタッフリスト 47



IAMAS

Annual Report

2011

01

IAMAS
Annual Report
2011

［連携区分］

共同研究

［プロジェクト名］

日本写真印刷株式会社共同研究

［連携先］

日本写真印刷株式会社（京都市）

［連携場所］

IAMAS／日本写真印刷株式会社

［担当教員］

小林茂（代表者）
赤羽亨
鈴木宣也

［連携期間］

2010年4月1日—2012年3月31日

日本写真印刷株式会社共同研究

プロジェクトの目的

日本写真印刷株式会社とIAMASは、日本写真印刷の得意とする加飾印刷やタッチパネルに関する技術と、IAMASが得意とするフィジカルなインタラクションデザインとプロトタイピングの手法を組合わせ、新しい可能性を探求する共同研究を2年間実施した。2010年度は「新しい触感とセンシングついての研究」、2011年度は「タッチパネル入力の深化と拡張」をテーマに取り組んだ。各年度毎にアイデア創出からプロトタイプ実現まで実施し、その後、展示することで意見を収集した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

本学卒業生と日本写真印刷が仕事をしたことから、本学の存在を知り、技術を応用したプロトタイプの実現を試行したいということからはじまった。

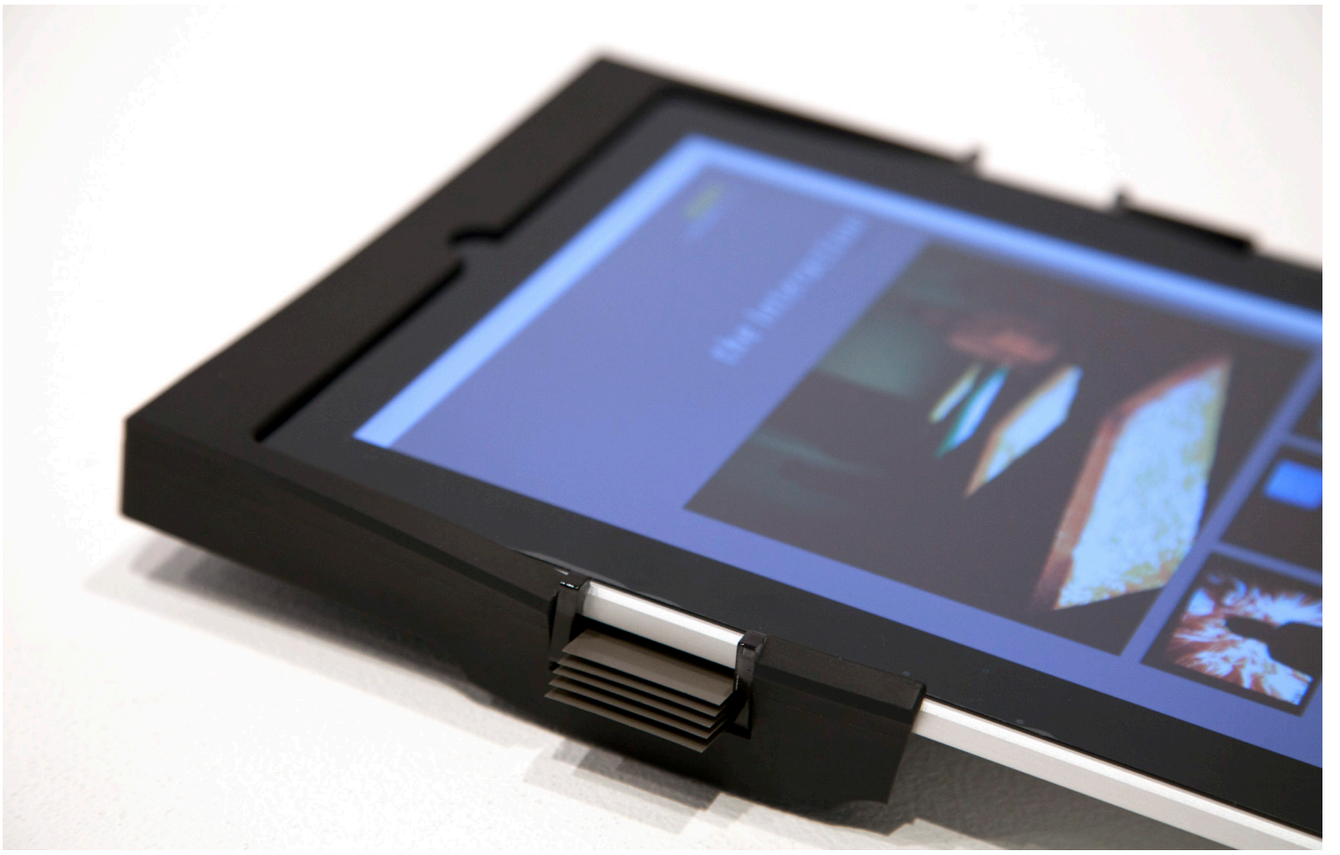
2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2010年
4月—7月：リサーチとアイデアスケッチ
7月—8月：プロトタイプ制作
9月：展示発表（AXIS）
10月—2月：改良
2011年
3月：論文発表（インタラクション2011）
4月—7月：リサーチとアイデアスケッチ
8月—10月：プロトタイプとインタラクションの検討
11月—2月：プロトタイプ制作
2012年
3月：展示発表（AXIS）

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

リサーチとアイデア創出は互いに行い、プロトタイプの実装と成果発表の展示や論文発表などIAMAS側の教員・学生が担当した。

［参加メンバー］
2010年度：山川K.尚子（研究補助員）、井澤謙介、山本雄平
2011年度：井上大、今井久嗣、岩島伊織、鈴木雄貴



「みとめ」タッチパネルを利用した印鑑の提案

「ろくろ」掌での3Dモデリングするインターフェイスの提案

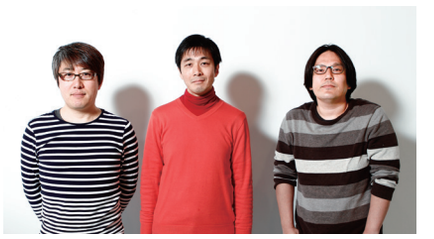
「ステッカー」ステッカー型のタッチ領域拡張デバイスの提案

「ホムコン」平面ではなく、すり鉢状になった面を持つタッチパネルの提案

連携の成果

2010年度はタッチパネルを利用したデバイス「めくり」（電子書籍の操作インターフェイス）と「みとめ」を実装し、2件の特許を出願済。2011年度は技術を応用したプロトタイプ「ろくろ」「ステッカー」「ホムコン」を実装した。

参加教員のコメント



日本写真印刷の方々とディスカッションしながらアイディアをつめていく過程は、具体的な内容が興味深くあり、また実際の企業の内状を垣間みることができ参考になった。

02

IAMAS
Annual Report
2011

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

【ぎふ】ワインプロジェクト

［連携先］

中部電気工業株式会社
岐阜県産業技術センター
岐阜大学産官学融合本部
財団法人ソフトピアジャパン

［担当教員］

瀬川 晃
RCIC 伊東正人研究員

［連携期間］

2011年2月—8月

【ぎふ】ワインプロジェクト

プロジェクトの目的

富有柿を使った岐阜の新たな商品開発にあたりデザインを担当。競合商品を試飲し商品展開の方向性を検討後、自然食品にこだわる30 — 50代の女性をターゲットと想定。アンケート調査によって「岐阜＝富有柿」のイメージを明確にし、商品名やカラーを強調したブランドイメージを作ることを提案。100％富有柿から醸造した本格的な果実酒であることを全面にアピールし、単なる和だけではないモダンな印象を表現するため、オレンジとゴールドをベースカラーとした。フロスト加工された既成の瓶を前提に、透明感のあるすっきりとした甘味を想像させるラベルデザインと、それにともなうリーフレットを制作。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2006 — 2008年にかけ岐阜県産業技術センターが、富有柿に含まれるメラニン生成抑制成分を含んだワインの醸造技術を開発。2010年に岐阜大学産官学融合本部のコーディネートで商品化が決まり、IAMASでデザインを担当。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2010年
12月：岐阜大学産官学融合本部から依頼

2011年
2月：メンバー顔合わせ
3月：試飲／アンケート調査
4月：商品名決定
5月：ラベルデザイン／印刷／原料仕込み／醸造
7月：ビン詰め／リーフレットデザイン／印刷
8月：記者発表／発売開始

3 IAMASはPJにどう関わったか

地域産業支援としてデザイン協力

岐阜大学産官学融合本部にてプロジェクトメンバーにより記者発表をした様子

透明シートに特色３色で印刷されたラベルの色校正

トレーシングペーパーに印刷された３つ折りリーフレット

ロゴタイプのスケッチから検討したデザイン案

連携の成果

岐阜大学産官学融合本部にて2011年８月に商品の記者発表と試飲会を行う。初年度は試験的に500本の製造となり、贈答用の注文や飲食店での試験販売などが行われ好評を得られた。今後は原料の調達次第で増産予定。

参加教員のコメント

ラベルデザインの制作にあたりネーミングからアンケート調査を行った。いかに想定するターゲットに訴求できるか、関係者と連携を図り良い結果となった。今後は県産品として定着してほしい。

03

IAMAS
Annual Report
2011

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

スマートフォン・タブレット端末の
福祉分野での活用研究会

［連携先］

NPO法人バーチャルメディア工房ぎふ、公益財団法人ソフトピアジャパン、岐阜県情報技術研究所、日本福祉大学、岐阜本巣特別支援学校、岐阜希望が丘特別支援学校、岐阜経済大学、岐阜県教育委員会など

［連携場所］

岐阜本巣特別支援学校、ソフトピアジャパンなど

［担当教員］

山田晃嗣

［連携期間］

2011年4月 —2014年（継続中）

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会

プロジェクトの目的

スマートフォンやタブレット端末の利活用はいろいろな分野で進められているが、障がい者の方々の間では活用されている情報がまだ少ない。このプロジェクトでは、これらの端末の利活用方法をメリット、デメリットを勘案しながら検討し、実践していくことを目指している。なお、2013年から特別支援学校等と連携を進めていくことになり、スマートフォンなどの端末に限定せず、情報機器をどのように活用すると障がい児のQOL (Quality of Life) を向上させることができるかも主眼に進めている。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2011年度の秋に岐阜県遊戯業協同組合から本学へiPadを寄付頂いたことがきっかけとなり、iPadで障がい者のQOLをいかに向上させるかを検討する研究会が発足し、現在に至っている。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

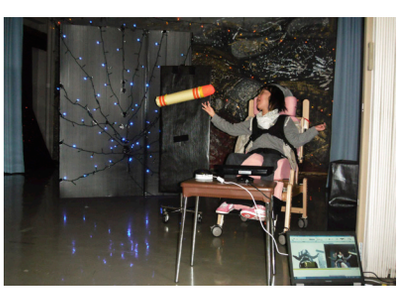
今年度からは、県内の学校や大学等との連携をしながら、複数のテーマを平行して進めている。現在は4つのテーマを扱っている。

- 特別支援学校で運営している喫茶店にタブレット端末を導入し、接客業の生徒を支援するアプリの取り組み（就労支援）
- 平光先生の障がい児向けのWindowsアプリをタブレット端末で実装する取り組み
- 特別支援学校の学校祭でOAK※を活用した取り組み
  ※OAKはKinectを使った東京大学と日本マイクロソフト株式会社が共同開発したものである。
- 障がい者が情報機器を利用した場合の口コミ情報を共有するシステムの取り組み

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

研究会のプロジェクト全体の進行と、口コミ情報を共有するシステムの取り組みなどに関わっている。

ATACカンファレンス京都2013（12月14日）で、タブレット端末アプリによる就労支援の内容と研究会活動報告を発表した。



特別支援学校の学校祭にてOAKを用いた電飾制御をしながら、役を演じている時の様子である。

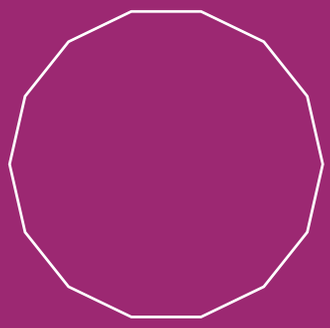
学校関係、行政関係、NPO団体、民間企業等の組織で構成する研究会で議論をしている時の様子である。

連携の成果

障がい者への支援技術は支援対象の効果のみならず、自分自身でできたことで自信が付くなど心理的な効果も大きい。そのため、これらのプロジェクトは多分野からの意見やアドバイスが鍵となるため、組織連携の必要性を感じた。

参加教員のコメント

健常者向けアプリを支援ソフトとしての用途を考えたり、開発アプリへの小さな気配りをすることで、障がい者の生活へ大きな影響を与えることになるため、多くの視点を持って臨むことが重要であった。



IAMAS

Annual Report

2012

01

IAMAS
Annual Report
2012

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

恵那市岩村プロジェクト

［連携先］

恵那市岩村振興事務所
いわむらをデザインする会議
せんしょ隊

［連携場所］

恵那市岩村

［担当教員］

入江経一（代表者）
金山智子

［連携期間］

2010年度 —2013年度

恵那市岩村プロジェクト

プロジェクトの目的

このプロジェクトは恵那市岩村振興事務所、いわむらをデザインする会議、市民らの依頼で始まった。歴史と文化に恵まれた城下町岩村は、優れた景観の歴史的街区として認定されている。町は20年ほど前から活性化を目指して観光に力を入れ、多くのイベントも開催されているが、実は経済は下向きで振興活動を受継ぐ次世代も育たず、また岩村のシンボル「女城主」に代わる町づくりのグランドプランも無いなど、町は将来への不安を抱えていた。本プロジェクトでは岩村町の新しいアイデンティティとして、婦人会の活動そのものを町のシンボルにする「せんしょ隊」を提案し、デザイン支援も行ってユニークなアイデアを実現した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

IAMASの地域連携フォーラムi.Laboの活動を知った岩村振興事務局長と住民の方が、町づくりの支援を依頼しに来校した。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2010年以降

・岩村の町づくりに参加し定例会議で助言を行う。

2012年4月以降

・婦人会のイメージ刷新をポスターで表現して提案。
・いわむらをデザインする会議で「せんしょ隊」の名称決定。婦人会の了承を得る。
・「手ぬぐい、エプロン、名刺」のデザインを提案し制作される。

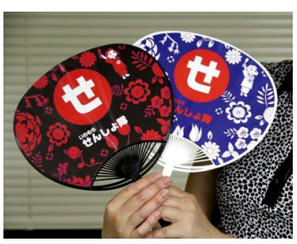
2013年4月以降

・「せんしょ隊」委員会で助言を行う。「ポスター」をデザイン、印刷され配布される。
・夏祭りの「うちわ」のデザインを提案し、制作される。
・いわむらをデザインする会議において、1）ショートタームの目的の部会、2）ロングタームの目的の部会による運営を提案し、２つの部会がスタート。各テーマごとにメンバーが議論を始める。
・地域活性学会で論文発表

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

年間を通じ会合でアイディア、企画を提案し、それらを振興事務所員が媒介役となってコミュニティに伝達して、岩村の人たちが企画を実現化している。

せんしょ隊手ぬぐい：この手ぬぐいをきっかけに着物を普段着るようになるなど、住民の意識や生活に変化が生まれた。



かつての踊りを夏祭りで復活し、通り全体でおそろいの団扇で踊ろうと「せんしょうちわ」を制作。

せんしょ隊ポスター、チラシ：このチラシを配布し、結成と同時に50名の隊員が集まる。

店に赤いせんしょ隊看板を出し、お揃いの「せんしょ隊」エプロン姿でビジターの応対をしているメンバー。

連携の成果

「せんしょ隊」は2013年6月現在で60名を越えている。主な活動は各種イベントの運営と実行、自分の店でのガイドや語り部の役割。活動はマスメディアでも紹介されて、積極的な住民参加意識が生まれた。

参加教員のコメント

岩村城跡で有名な恵那市岩村町は歴史的街区として認定され、イベントや祭りで活気を呈している。本研究はこのコミュニティ活動を支える「婦人たちの可視化」をテーマに「せんしょ隊」の組織化とそのデザインを町に提案した。

02

IAMAS
Annual Report
2012

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

生成音楽ワークショップ第７回　ジョン・ケージ、「失われた沈黙を求めて（プリペアド・トレイン）」（1978/2012）

［連携先］

樽見鉄道株式会社・Make Ogaki Meeting 2012・IAMAS オープンハウス・サントリーサマーフェスティバル「即今―ケージ・ミュージサーカス・イン・東京」

［連携場所］

樽見鉄道　大垣ー樽見

［担当教員］

城一裕（代表者）
金子智太郎（東京藝術大学）

［連携期間］

2012年8月25日 ―26日

生成音楽ワークショップ第７回 ジョン・ケージ、「失われた沈黙を求めて（プリペアド・トレイン）」（1978/2012）

プロジェクトの目的

「失われた沈黙を求めて」は、実験音楽の巨匠ジョン・ケージが、1978年にイタリアのボローニャ近郊で開催したスピーカとマイクロフォンを設置した（プリペアドした）列車による音楽作品。生成音楽ワークショップでは、彼の生誕100年・没後20年を迎えた2012年に、Make:Ogaki Meeing 2012 / IAMASオープンハウスおよび、サントリーサマーフェスティバル「即今―ケージ・ミュージサーカス・イン・東京」（8/26のみ）との共催で、この作品を再現。なお、本プロジェクトは科研費・挑戦的萌芽研究「生成音楽の体系的理解に向けた音を生み出す構造の分析」（24652029）の助成を受けて進められた。

連携のプロセス

1　連携のきっかけ

ジョン・ケージの記念イベントの開催にあたり「失われた沈黙を求めて」の再演を検討。幾つかの候補（鉄道）の中から、実施に際し全面的な協力の申し出があった樽見鉄道株式会社での開催を決定。

2　プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

5月　　：企画の提案
6月上旬　：共催先・使用車両の決定
6月20日：樽見鉄道株式会社との第１回打ち合わせ
7月中旬　：IAMAS学内でのスタッフ（6名）の募集
7月30日：スタッフミーティング
7月31日：樽見鉄道株式会社との第２回打ち合わせ
8月7日　：ウェブサイトでの参加募集開始
8月19日：樽見鉄道株式会社との第３回打ち合わせ
8月22日：演奏者が確定
8月24日：最終打ち合わせ。パンフレットの印刷など
8月25－26日：実施

3　IAMASはプロジェクトにどう関わったか

科研費の助成を受けた研究活動の一環として実施。

車内外に配置したスピーカ
（撮影：佐藤美穂）

8/25 プリペアドトレイン　乗客・出演者・スタッフによる集合写真
（撮影：佐藤美穂）

公募した演奏者による車内でのパフォーマンス（撮影：佐藤美穂）

当日配布したプログラムノート

連携の成果

金子智太郎、城一裕、生成音楽ワークショップ第７回：ジョン・ケージ《失われた沈黙を求めて》（1978）、情報科学芸術大学院大学紀要、第４巻、pp.53-60、2013

生成音楽ワークショップ（城一裕、金子智太郎）、プリペアド・トレインの運転士として、アルテス、vol.04、pp.114-116、2013

参加教員のコメント

地域連携という観点からは、ケージが望んだ地元の食べ物や飲み物の提供を、田中屋せんべい総本家および大垣市観光協会の協力により再現出来たことが、強く印象に残っている。

03

IAMAS
Annual Report
2012

［連携区分］

共同研究

［プロジェクト名］

肢体不自由児のiPad使用時における入力操作の補佐をする装置の開発

［連携先］

岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校

［技術協力］

岐阜県情報技術研究所
株式会社電算システム

［担当教員］

赤羽亨

［連携期間］

2012年10月—2013年3月

肢体不自由児のiPad使用時における入力操作の補佐をする装置の開発

プロジェクトの目的

本研究では、iPadのタッチパネルディスプレイに装着することで外付けのスイッチ等をiPadでも使用可能にするインターフェイス「つなぎどころ」を開発した。これによって、iPad操作が困難な肢体不自由児たちのための最適なインターフェイスを、肢体不自由児や介助者が、それぞれの障がいに合わせて容易に模索できるような環境の構築を目指した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

岩島伊織くんが修士研究を進めるにあたり、実際の教育現場からのフィードバックをもらうために岐阜希望ヶ丘特別支援学校を訪問したことを発端にして、共同研究に発展した。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2012年

10月：リサーチ ／ 制作プラン作成

11月：プロトタイプ制作／ ユーザーテスト ／ フィードバック

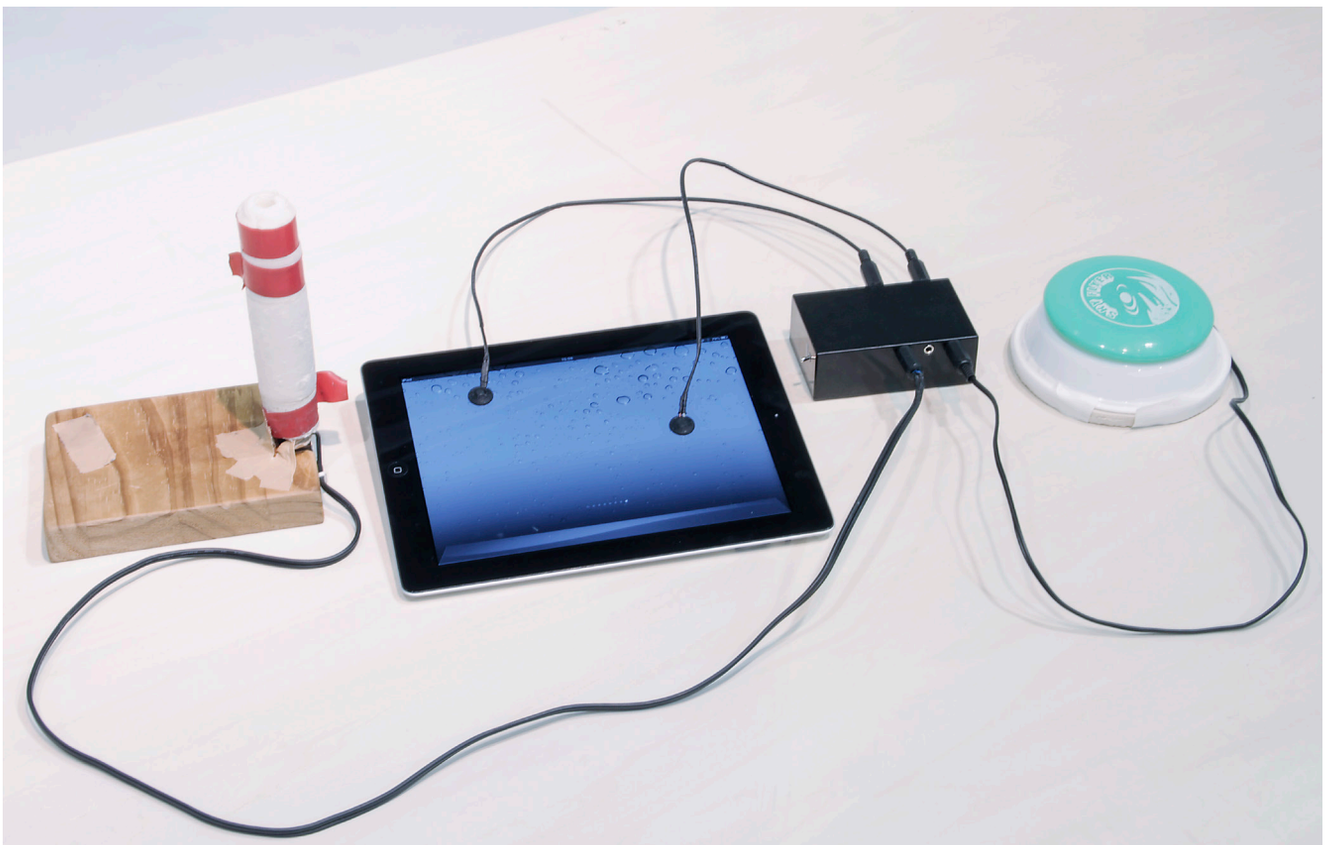
12月：ワーキングプロトタイプ制作 ／「一歩さがって、二歩すすむ」
（2012/12/21—23 東京）にて展示

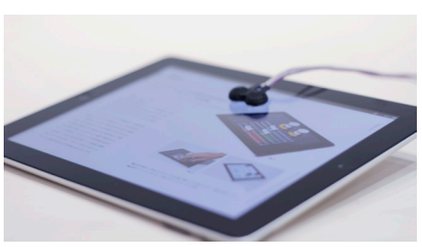
2013年

1月：ドキュメンテーション制作

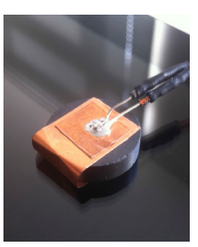
3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

授業等で使用可能なプロトタイプを制作して提供する。

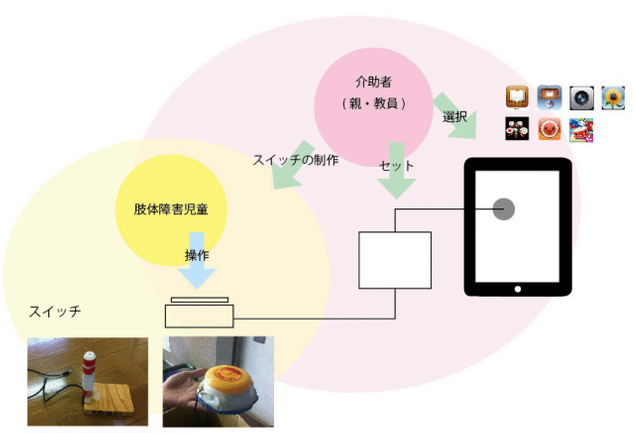




タップ動作部（faketap）
最終プロトタイプ：2つを並列に設置しスライド動作を可能にしている。



タップ動作部（faketap）
初期プロトタイプ：磁石を組み合わせている。



つなぎどころ 概要イメージ。

連携の成果

ここで開発した「つなぎどころ」によって、iPad上で本をめくる、楽器を鳴らすといった操作を、上肢に不自由のある児童が、介護者の助けを借りながら体験できる環境を示すことができた。

参加教員のコメント

特に児童が苦手とするスライド操作の実装や、1カ所にタップできるだけではなく、複数の入出力を行えるようにするなど、実際に特別支援学校の教員の方からフィードバックを得ながら実用性の高いプロトタイプとなった。
（写真：制作者の岩島伊織さん）

04

IAMAS
Annual Report
2012

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

硬式野球ボールの縫い目判定

［連携先］

ミズノテクニクス株式会社

［担当教員］

小林孝浩（代表者）
山田晃嗣

［連携期間］

2012年6月—2013年3月

硬式野球ボールの縫い目判定

プロジェクトの目的

硬式野球のボールは、天然の牛皮で表面を包み、糸で縫い合わせて作られている。そのすべてが手縫いであることや、牛革は方向により伸びの違いがあるなど、製造において縫い目が不揃いとなる要素が存在する。縫い目のそろい具合は製品の見た目だけでなく、機能にも影響を与えるため、検査員により判定されているが、その詳細な基準は明文化されていない。実際の良品と不良品の縫い目に関して、いくつかの指標を測定したところ、単純なしきい値では分別できないことを確認した。そこでボールの良否を判定するための、「人間が良い」と判断する指標を見つけるべく、プロジェクトをスタートした。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

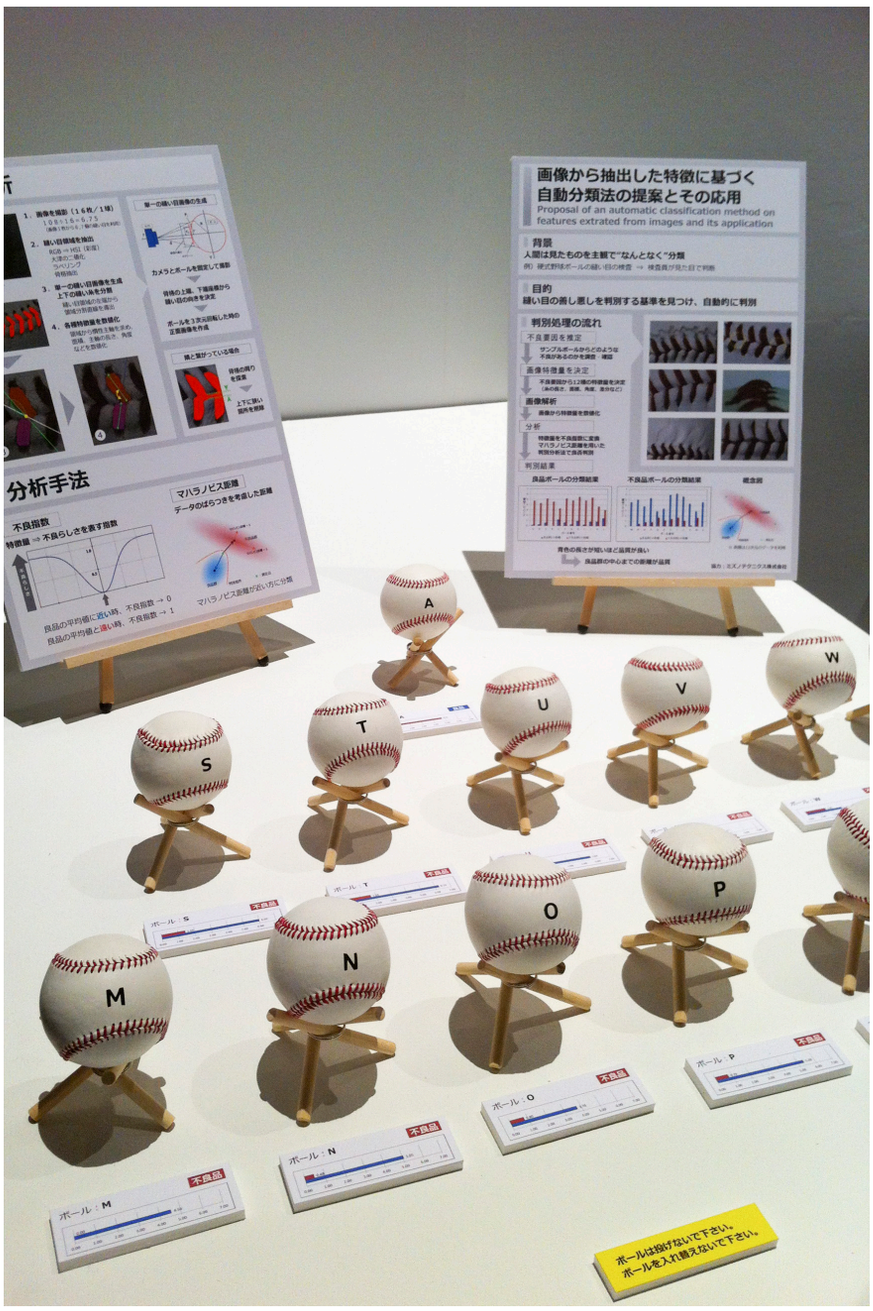
地元のIT企業を通じ、硬式球の縫合自動化の相談を受け連携していた。その際、ボールの不良を判定する詳細な基準が設けられておらず、ひとの感覚に頼っていることが判明。製造プロセスへの反映を狙って開始した。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

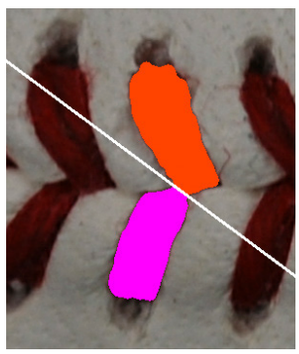
2012年
6月：課題の提案・開始
7月：サンプルボール受領
11月：不良要因抽出・分類／先方での確認
2013年
2月：先方への成果報告
3月：学会発表

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

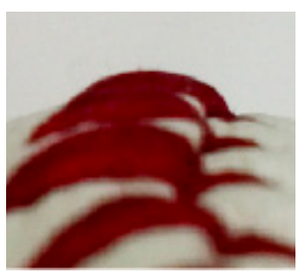
全体を通して主体的に関与



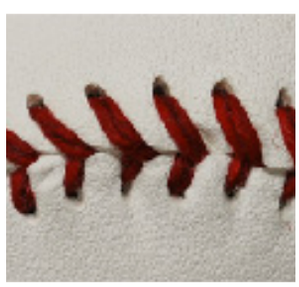
手縫いの様子
出典：http://www.mizunoballpark.com



画像処理の様子。糸の部分を抽出後、上下の縫い目に分割。長軸方向の長さや面積を指標として得る。



不良ボールの様子。片側の縫い目だけ大きく膨らんでおり、長さも長い。

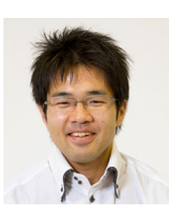


不良ボールの様子。縫い目が革に食い込んでしまっている。

連携の成果

「隣り合う縫い目の違いに気づきやすい」といった、ひとの視特性を考慮した基準を設け、サンプルボールすべてを正しく判別する基準を見つけるに至った。先方でのプレゼンを行ない意見交換した。

参加教員のコメント



サンプル数が24対と決して多くはないが、視特性を考慮することで判別できる可能性を示した。具体的に何が不良要因なのかを明示できれば、縫合の作業工程に反映できたのだが、今回はそこまでには至らなかった。
（写真：制作者の髙井大輔さん）

05

IAMAS
Annual Report
2012

［連携区分］

公開講座

［プロジェクト名］

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜　公開講座

［連携先］

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜
（本部：岐阜大学）

［連携場所］

岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜市吉野町6-31　岐阜スカイウイング37　東棟4階）

［担当教員］

小林昌廣

［連携期間］

2010年9月―2014年（継続中）

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜　公開講座

プロジェクトの目的

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜は、岐阜県内の大学22校と岐阜県で構成する連合体であり、1998年に設立されて以来、地域における知的活動の中心拠点として、高等教育に対する多様なニーズに対応し、地域社会の発展に寄与することを目的に展開してきた。本公開講座はその一環として、広く市民を対象とした教養拡充と知的好奇心の発揚を目的として開講された。

連携のプロセス

1　連携のきっかけ

2010年よりIAMASがネットワーク大学コンソーシアム岐阜の加盟校として参加し、何らかの公開講座の開講を要請された。

2　プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2010年（後期）、2011年（前期・後期）は隔週で各8回、2012年（通年）、2013年（通年）はほぼ3週に一回開講で各15回、公開講座を行なった。

2010年9月―2011年3月
「落語」という世界　於ネットワーク大学岐阜　岐阜駅サテライト教室

2011年4月―9月
「落語」という世界2　於ネットワーク大学岐阜　岐阜駅サテライト教室

2011年9月―2012年3月
「落語」という世界3　於ネットワーク大学岐阜　岐阜駅サテライト教室

2012年4月―2013年3月
笑いの世界　於ネットワーク大学コンソーシアム岐阜ふれあい福寿会館サテライト教室

3　IAMASはプロジェクトにどう関わったか

IAMAS教員の小林昌廣が全講座を担当した。

毎月、映像資料と音源資料を駆使した講義が展開される。

幕末に落語を大成させた三遊亭圓朝から現在活躍している噺家まで幅広く演者を扱う。

職業や年齢もさまざまな受講者が毎回熱心に足を運ぶ。

連携の成果

毎回50—70人の参加者があった。

参加教員のコメント

岐阜（美濃）は落語の開祖である安楽庵策伝の生誕の地であるため、落語や漫才など笑いについての関心が高く、参加者の希望によって毎年開講されている。

IAMAS

Annual Report

2013

01

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

共同研究・地域連携

［プロジェクト名］

メディア・地域・鉄道プロジェクト

［連携先］

岐阜ローカル鉄道連絡会議
樽見鉄道株式会社

［連携場所］

岐阜県各地

［担当教員］

金山智子（代表者）
平林真実
城一裕
瀬川晃

［連携期間］

2013年—2014年（継続中）

メディア・地域・鉄道プロジェクト

プロジェクトの目的

ローカル鉄道の車両、駅、周辺地域をユニークな空間メディア、またはメディア空間としてとらえ、IAMASの表現の場として活用することを目的としている。2013年は、前年度の取組みを発展させ、また、IAMASの多様なプロジェクトと連携しながら、樽見鉄道、長良川鉄道、明知鉄道、養老鉄道と岐阜の4つのローカル線を対象にアート・デザイン・ものづくりなどを実装させる取組みを積み重ねた。同時に、地方における交通機関の在り方について新たな提案を探求していく。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2012年にジョン・ケージによるプリペアド・トレインの再演、岐阜の名産を再編集した柿カフェトレイン、ARを搭載したクリスマス・トレインを樽見鉄道株式会社とのコラボにより実践、今年度はさらに連携や取組みを発展させた。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

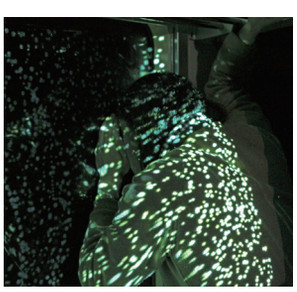
2013年
4月　：岐阜ローカル鉄道連絡会議より情報発信に関する協力を正式に依頼
6月　：樽見鉄道の視察（学生）および音・映像を使用した実験
8月　：「岐阜ローカル鉄道の旅」ポスター完成
11月：「岐阜ローカル鉄道の旅」AR実装チラシ完成
　　柿カフェトレイン実施
12月：クラブトレイン実施
2014年
3月　：長良川鉄道視察予定

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

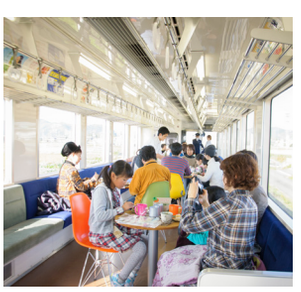
企画の提案、デザイン、技術開発・導入、プロモーションなど、全プロセスにおいて中心的に関わっている。他のプロジェクトとのコラボも進めた。

レーザーカッターを使って学生が制作した柿カフェトレインの記念切符。

ARを実装したチラシとポスター。情報をファンに直接発信できる新しいコミュニケーションチャンネル。



樽見鉄道をクラブトレイン化。暗闇を走る車輌で音と光を使った新しい体験拡張の実験。



今年の柿カフェトレインは、デザイン、テイスト、コミュニケーションをさらにアップ。乗客の満足度は100%。

連携の成果

全国初のAR実装型の鉄道チラシ＆ポスターはローカル鉄道ファンとの新たなコミュニケーションチャネルの構築となり、また、クラブトレインはエンターテイメント空間としての新たな可能性を広げた。

参加教員のコメント

ローカル鉄道のユニークな時空間に、IAMASらしいデザインやテクノロジーを実装させることで、新しいローカル鉄道の楽しみ方を創造することができ、鉄道関係者や乗客からも非常にいい反応を得られてよかった。

02

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

幼稚園／保育園／幼保園のための
ICTに関する研究

［連携先］

大垣市

［連携場所］

IAMASイノベーション工房［f.Labo］、
青墓幼保園、中川幼稚園、丸の内保育園

［担当教員］

小林茂（代表者）
James Gibson

［連携期間］

2013年6月—2014年（継続中）

幼稚園／保育園／幼保園のためのICTに関する研究

プロジェクトの目的

幼稚園／保育園／幼保園におけるIT教育及びICTの活用は、既存のカリキュラムの補強、既存のアプリケーションの体験や先生達の業務効率の改善にとどまっている。現在の延長線上にはない大きな変化が予想される未来を生きる子ども達に、どんな経験や教育が必要なのかは、予測が不可能で非常に難しい課題である。この課題に対して、現場調査を踏まえつつアイデアを創出し、それを体験できるプロトタイプとして制作し、実際に体験してもらうことを通じて探求し、実際に効果があり、かつ実行可能なアイデアとして提案する。最終的には、大垣市が園に通う子ども達やその親にとって魅力的な都市になるための1つのツールになることを目指す。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

市の政策として情報産業の育成と子育て日本一を掲げる大垣市から、幼稚園／保育園／幼保園におけるITの活用に関して、例えばスマートフォンやタブレット向けのアプリケーションを開発できないかという相談があった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2012年

6月：大垣市より産業文化研究センターに上記の件に関する問合せ

9月：授業において現場調査とアイデア創出を体験する題材として実施

2013年

1月：アイデアを大垣市側にプレゼンテーションして授業としては完結

4月：前年度を引き継ぎ、実際に園で使えるようにしていくための方針を検討

6月：IAMASイノベーション工房プロジェクトにおいて活動を開始

7月：青墓幼保園、中川幼稚園、丸の内保育園において現場調査を実施

8月：現場調査を踏まえてアイデアを創出し、内2つをプロトタイプとして実装

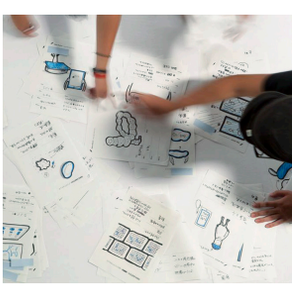
9月：東京での展覧会で展示し、フィードバックを得ると共に再度1園でも評価

10月—11月：アイデアを発展させつつ、さらに多様なアイデアを創出
平行して先行研究や他の市町村等での先行事例を調査

12月：大垣市側と120以上のアイデアを元にディスカッションし方針を再設定

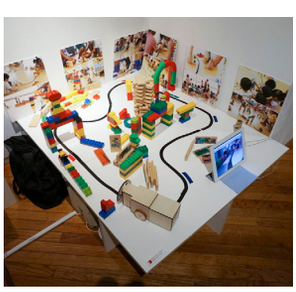
3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

現場調査に参加し、それを踏まえて体験できるプロトタイプを制作し、現場調査を行った園で体験してもらい、その結果を分析した。



現場調査を元に膨大な数のアイデアを創出し、それをアイデアスケッチとして書き出している様子。

制作したプロトタイプを青墓幼保園に持ち込んで実際に園児達に試してもらっている様子



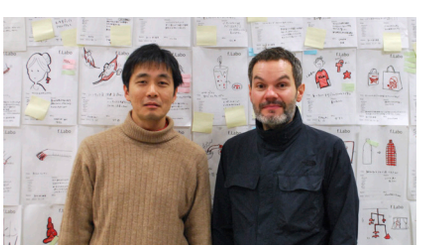
ドロトレ：おもちゃでつくった情景の中を、テープで描いた線をトレースしながら電車が走り、搭載した小型カメラがとらえた光景をタブレットで表示して楽しむ。（展示風景）

TREE VOICE：木に取り付けたマイクの音をデジタル処理で変化させ、持ち運べる木箱のスピーカーから聞くことで、木の声を聞いたり、話しかけたりすることができる電子玩具。

連携の成果

体験できるプロトタイプとして提示し、実際に体験してもらったことにより、一方的な提案にとどまらず深いディスカッションができた。これにより、今後実際に様々な園に提案、導入していくための道筋がある程度できた。

参加教員のコメント



現場調査を通じてそこに関わる人々を理解し、単なる問題解決ではない提案を行うのは難易度の高い課題であった。しかし、調査、創出、制作、議論を繰り返すことで少しずつ前に進めることができ、貴重な学びとなった。

03

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

共同研究

［プロジェクト名］

豊田中央研究所共同研究

［連携先］

株式会社豊田中央研究所

［担当教員］

鈴木宣也（代表者）
赤羽亨

［連携期間］

2012年7月1日—2014年3月31日

豊田中央研究所共同研究

プロジェクトの目的

豊田中央研究所はトヨタグループの研究機関であり、自動車をはじめ幅広い分野に向けた研究開発を行っている。このプロジェクトでは豊田中研で開発された「Electro-Magnetic Package」という技術を対象とし、ユーザエクスペリエンスを考慮したアプリケーションの提案とプロトタイプを通して、豊田中研の技術の応用可能性を探った。アプリケーションは自動車への適用に限定するものではなく、私たちの生活全般へ向け、人間中心設計やサービスデザインなどを試行し、アイデア創出では時に自動車の存在自体を再構成することも視野に入れて活動した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

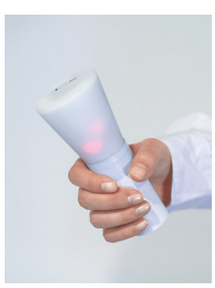
豊田中研では技術の応用可能性を探る方法論を模索していた。AXISで開催した展覧会に豊田中研の担当者が来場したことが切っ掛けとなり連携が始まった。中部圏同士ということで距離が近く、話す時間が取りやすいことも決め手となった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

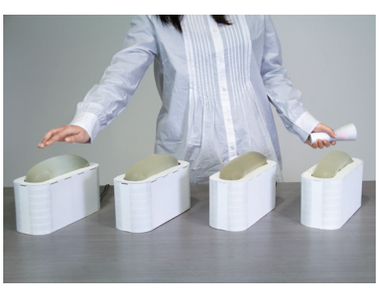
2012年
7月—9月：リサーチとアイデアスケッチ
10月—11月：プロトタイプ制作
12月：展示発表（SHIBAURA HOUSE）
2013年
1月—6月：技術検討とアイデアスケッチ
7月—8月：プロトタイプ制作
8月：展示発表（六本木AXIS）
9月—10月：改良
11月：展示発表（神戸KIITO）
12月—2月：まとめ
3月：学会発表（インタラクション2014）

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

リサーチとアイデア創出を共同で行い、プロトタイプの実装と成果発表や展示をIAMAS側の学生が担当した。また豊田中研の担当者にアイデア創出のテクニック（アイデアスケッチ）をレクチャした。

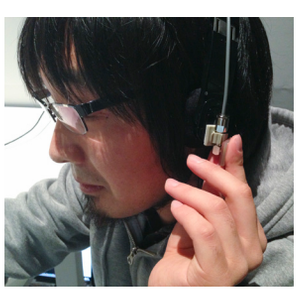


「やわらかセンサ」送信機
プロトタイプ



「やわらかセンサ」体験概況

振動を用いたインタフェースのプロトタイプ

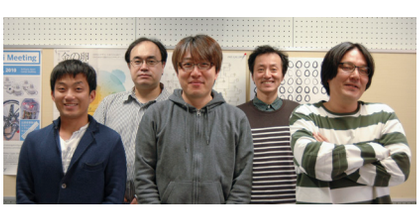


対話時のジェスチャで情報共有するプロトタイプ

連携の成果

2012年度は、自動車向けの振動を用いたインタフェースの提案とプロトタイプ、対話時のジェスチャで情報共有する技術の提案とプロトタイプ。2013年度は、やわらかいものを入出力インタフェースとするプロトタイプ「やわからセンサ」のプロトタイプ。

参加教員のコメント



企業内の現状や社会との関わり方など知ることができ、また新たな技術に接することで考え方を広げることができた。豊田中研から「やわらかセンサ」に対して、人が触れる部分にやわらかいものを利用するという発想に刺激された、とコメントをいただき、満足度の高い取り組みであった。

04

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

ものづくりオープンメソッドプロジェクト

［連携先］

岐阜工業高等専門学校
美濃市（美濃市役所）
（株）タカイコーポレーション
（株）喜乃紀
（有）トリガーデバイス

連携場所

主なフィールドは美濃市内。
議論や検討は美濃市、ドリーム・コア（大垣）にて。

［担当教員］

小林茂（代表者）
吉田茂樹
RCIC 藤原広美研究員

［連携期間］

2012年5月—2014年（継続中）

ものづくりオープンメソッド プロジェクト

プロジェクトの目的

全体的には、IAMASと岐阜高専との連携事業の一環として、新しいものづくり手法を探求するプロジェクトとして実施している。その中で、サイクルシティ構想を掲げる美濃市をフィールドとして、「美濃市におけるコモビリティとスポーツツーリズム」をテーマとし、うだつの上がる町並みや美濃和紙などの観光資源と、サイクリングコースを初めとした各種のスポーツ観光資源を生かし、自転車を中心とした各種の交通手段と情報技術や各種のデバイス等を組み合わせて、新しい形の観光スタイルを提案する研究活動を行っている。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2012年5月に開催した、プロジェクトの公開ミーティングに美濃市の担当者が参加し、その後美濃市をフィールドとして研究活動を進めることになった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2012年度

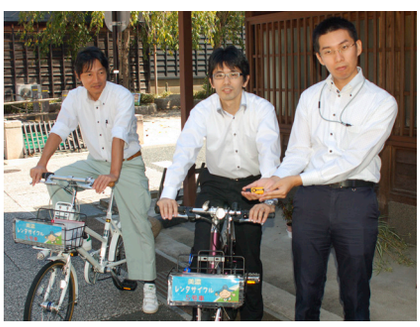
6月— ：美濃市における自転車利用方法等についての検討。
8,12月：レンタサイクルおよびサイクリングコースに関するフィールドワーク。
2月 ：美濃市のレンタサイクルに追加導入する自転車に関する提案。

2013年度

4月— ：美濃市の観光資源のための新しい観光手法の検討および内部実験。（GPSロガーや、ビーコンデバイスの利用、写真撮影との組み合わせ等）
9月— ：レンタサイクル利用者に対するGPSロガーによる利用状況調査実験開始。
12月 ：一般向けの活動サイトの作成・公開。美濃市と観光と自転車を結びつける「美濃自転車写真館」イベントの開始。ビーコンデバイスを利用した観光手法の実験イベント（ワークショップ）の開催。

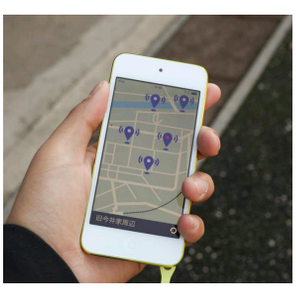
3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

プロジェクト全体の運営、各種実験やワークショップの実施、各種デザインの担当等。



GPSによる行動記録（ログ）収集社会実験用の表示システムを開発し、記者発表において社会実験の意義を説明し、表示例を示した。

美濃のいえにて「美濃ビーコンってなに?」ワークショップを実施し、iBeaconを使った観光案内の試作システムを体験してもらった。

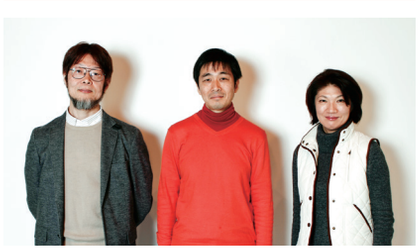


試作アプリを使うことで、iBeaconを設置した観光スポットに近づくと、自動的に観光案内の説明が流れる。

連携の成果

GPSロガーによるレンタサイクル利用状況調査実験および、美濃自転車写真館イベント、ビーコンデバイスイベントを開始・実施し、それぞれに関して美濃市から記者発表され、新聞取材・報道された。

参加教員のコメント



単純に新しい手法を実験提案するのではなく、様々な技術や手法を使いながらも美濃市ならではの魅力を再発見するにはどうしたらよいかということを意識してプロジェクトを進めている。

Mino Jitensha StyleのWebサイト
ITやデバイスを活用して自転車と観光や生活を融合する仕組みの第一弾として、写真投稿サイトを開設し、写真投稿イベントを開始した。

05

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

美濃のいえプロジェクト

［連携先］

美濃市役所
美濃デザインチーム
県立森林文化アカデミー

［連携場所］

岐阜県美濃市うだつの町並み

［担当教員］

金山智子（代表者）
入江経一
小林昌廣

［連携期間］

2013年1月—2014年（継続中）

美濃のいえプロジェクト

プロジェクトの目的

2013年度より、美濃市うだつの上がる町並みにある築80年の古い民家をIAMASの拠点として活動を始めた。学生や教員が古い家や町並みと対話しながら、それぞれの表現活動を地域の中で行っていく試みである。美濃市や美濃観光協会、地元商店や企業、県立森林文化アカデミーとゆるく連携しながら、美濃を中心とした中濃エリアに向けて、オープンに活動している。“地域とイノベーション”を大きなテーマにしながら、伝統芸能からデジタル工作機器にいたる多彩な切り口と、トークやワークショップ、展示といった多様な形態のイベントを実践している。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2011年と2012年の美濃プロジェクトを通じて、美濃のうだつの町並みの人たちや美濃市役所の人たちと関係が生まれた。それをきっかけに、うだつの町並みの空き家を拠点に、IAMASの表現活動を継続的に行っていくことにした。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2013年

4月　：授業などで使用しながら、美濃のいえの整備。
7月　：美濃いえびらき
8月　：お化け屋敷
9月　：第一回車座トーク　『ジョブズと禅～不世出のイノベーターを支えた教え』
11月：第二回車座トーク　『笑う策伝～美濃学入門』
　　第三回車座トーク＆ワーク　『まちなかDIY ～デジタル工作機械を使ったものづくり』
12月：第四回車座Wワーク　『みんなでつくろう★オーナメントラジオ』
　　『たちもじ～ひらがなの形を体験する参加型作品』

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

企画から実践までIAMASが行っているが、広報などはうだつの町並みの商店や美濃市役所などが積極的に行っている。

おばけ屋敷には230名を超す来場者。不思議なコワさの余韻を残した。

「出来た！」自分で組み立てたランプシェードで、おもわずにっこり。

お座敷での車座トークは講師と参加者がとても近い。

連携の成果

毎回イベントには、中濃エリアや名古屋などから多くの方々が参加し、盛況となっており、美濃のいえの活動に対する地元の期待や関心は高くなっている。地元商店や企業と学生とのコラボも生まれ、活動は拡っている。

参加教員のコメント

私たちの活動は家の歴史や雰囲気と融合されて想像を越えたものとなって現われる。そして、そこに集う人の間に面白い化学反応が起きる。美濃のいえの不思議な力を感じながら新しい創造に挑戦している。

小学生から年配の方まで参加したラジオオーナメントづくり。半田付けやデコレーションに夢中。

06

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

アートフルタウン大垣2013
「進展——IAMAS work in progress——」

［連携先］

大垣市商工観光課

［連携場所］

イアマス OS
（大垣駅前商店街のIAMAS多目的スペース）

［担当教員］

小林昌廣

［連携期間］

2013年10月4日—11月4日

アートフルタウン大垣2013「進展——IAMAS work in progress——」

プロジェクトの目的

大垣市内の空き店舗を利用したギャラリーや既存施設にアート作品を並べ、街全体が美術館となる「アートフルタン大垣」での展示の一環として、イアマスOSにおいて有志メンバーによってインスタレーション展示を行なう。重要なのは、街中のスペースで普段街を行き来する人たちや、日曜日ごとのイベントに訪れた人たちが入りやすくまた鑑賞しやすい空間設定と展示プランを実現させることにある。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

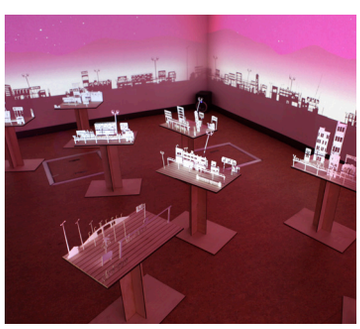
昨年も行われた「アートフルタン大垣2012」に続いての依頼のため

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

1　大垣市商工観光課からの依頼
2　運営委員会に出席
3　有志の学生を1年生から募る
4　浅羽昌二、髙畑慧、鍋谷美華の三人に決定する
5　場所の下見、予算組みなどを決定
6　全体的な企画案を以下のようなものとした：
　レリーフ状に配置された切り絵とプロジェクションで大垣の町を再構築するインスタレーションを中心に、制作の過程やスケッチなどを随時、公開・展示する
7　展示期間中に山口歩那による「はんだづけワークショップ」も企画され実施された

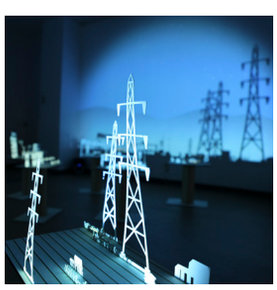
3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

イアマス OSでの展示の設営すべてに関わる。



切り絵によるプロジェクションによって大垣の街を再現する。

大垣駅前商店街の展示スペース前でIAMAS生の制作作品を試す子供たち。



壁面に映し出される大垣の街の光景、時おり人の影が通行する。

参加者たちも作品の一部になっている。

連携の成果

大垣の街中でおこなう様々なイベントは、当該展示も含めて、多くの参加者は地元の人々であり、とくに展示対象として大垣の町の歴史や空間を扱う場合には、ことのほか参加者からの意見をいただくことが多く、今回もその例にもれなかった。

参加教員のコメント

完成された作品を一方的に展示するのではなく、展示会場を制作の場として、来場者からの意見も参照しつつ展示物が制作され展示されていくという形式をとったインスタレーション。
（写真：制作者の浅羽昌二さん、鍋谷美華さん、髙畑慧さん）

07

IAMAS
Annual Report
2013

［連携区分］

地域連携

［プロジェクト名］

IAMASイノベーション工房［f.Labo］

［連携先］

岐阜県商工労働部地域産業課・情報産業課
公益財団法人ソフトピアジャパン
有限会社トリガーデバイス
合同会社わふう

［連携場所］

IAMASイノベーション工房［f.Labo］

［担当教員］

小林茂

［連携期間］

2013年4月—2014年（継続中）

Speedy300

IAMASイノベーション工房［f.Labo］

プロジェクトの目的

21世紀は人々の価値観や製造業をとりまく環境が多様化し、単に高性能、高品質を追求するだけでは企業が生き残れない時代だといわれている。岐阜県は、製造業だけをみても、自動車、航空機、プラスチック、金属製品、窯業、土石、化学、電気、工作機械など、多くの分野がバランス良く並び、世界有数の企業も数多く擁している。また、ソフトピアジャパンを中心に、スマートフォン、ウェブ、システムなどのIT企業も集積している。
こうした多様なスキルを持つ人々を掛け合わせ、3Dプリンターやレーザー加工機といったデジタル工作機械を活用し、アイデアを素早く具現化することを繰り返すことを通じてイノベーションを創出する。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2012年度の事業としてソフトピアジャパンと連携して運営した「f.Labo」に、デザインを活用した産業振興の観点から県内ものづくり企業の商品開発支援事業をコーディネートしてきた「デザインスタジオ」との統合が決定された。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2013年

4月　：IAMASイノベーション工房としてオープン、第4回ニコニコ学会βシンポジウムにおいて前年度の活動を紹介し1万人以上が視聴
6月　：商品開発支援事業の採択企業18社の中から6社が参加するグループワークを開始、第1回IAMASイノベーションフォーラムを開催
9月　：異なる分野の複数の企業がチームで製品開発に取り組む「コア・ブースター・プロジェクト」開始
10月：「おむすび博」で「スツールをつくろう」ワークショップを開催
11月：東京で開催されたDIYの世界的な祭典「Maker Faire Tokyo 2013」においてレーザー加工機や3Dプリンターを用いて実際に座れる椅子をつくる「第2回展開図武道会」を開催
12月：Appleの位置情報サービスiBeaconを実際の建物で用いた日本初の開発者向けイベントである「第1回iBeaconハッカソン」を開催

2014年

1月　：コア・ブースター・プロジェクトに参加したチームの1つがプロトタイプを発表

オープニングイベントでは、昨年度のf.Laboとデザインスタジオの成果を展示するとともに今年度の方針を発表し、多数の来場者が訪れた。（2013年4月19日）

第1回IAMASイノベーションフォーラムはデザインエンジニアの畑中元秀氏（当時は株式会社由紀精密、現Apple Inc.）、建築においてコンピュテーショナル・デザインを実践する竹中司氏（AnS Studio）をゲストに迎えて開催した。（2013年6月28日）

大垣市まちづくり市民活動支援センター主催の「おむすび博」の企画の1つとして開催したワークショップ。レーザー加工機を用いて実際に座れる椅子をつくった。（2013年10月19－20日）

DIYの世界的な祭典「Maker Faire Tokyo 2013」において開催した「第2回展開図武道会」の出展作品一覧。おむすび博のワークショップ参加者も出展した。（2013年11月3－4日）

ITとものづくりに関わる多様な企業がチームで製品開発に取り組んだ「コア・ブースター・プロジェクト」の成果の1つ「光枡」のプロトタイプ。日本酒を飲む際に、枡を傾けるとその傾きに応じて底面が美しく光る。ものづくり：有限会社大橋量器、デザイナー、カメラマン：サンメッセ株式会社、デザイナー：グラスプアットジエアー、プロデューサー、ソフトウェア開発：株式会社パソナテック。

3Dプリンターやレーザー加工機を予約制で使える「フリータイム」、複数の利用者がノウハウなどを共有しながら使える「フリータイム」は、自分の欲しい多様なものをつくる個人的な利用に加え、商品開発支援事業採択企業などが試作で活用した。

商品開発支援事業の採択企業から6社が参加したグループワークの様子。同じ製造業の中でも分野の異なる企業がお互いを訪問し、アイデアスケッチを通じて多様な視点を共有し、それを反映させながら商品開発を行っていった。

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

商品開発支援事業やコア・ブースター・プロジェクト、iBeaconハッカソンを通じ多様な人々のネットワーク形成を促進した。

連携の成果

商品開発支援事業では、2013年度中に各企業から製品、あるいはプロトタイプができる予定である。コア・ブースター・プロジェクトでは、1チームからプロトタイプが発表され、他にも製品化に向けた取り組みが進行中である。

参加教員のコメント

デジタル工作機械を備えた市民工房として2012年に運営したf.Laboを発展させ、複数の事業を展開したことにより、設立当初の目的としていた「ITとものづくりの交流拠点」の実現に近づくことができた。

連携事例+IAMAS関連イベント　全リスト

2011年度

	連携区分	研究名称	企業名／組織名	場所	担当教員等
1	共同研究	日本写真印刷株式会社共同研究	日本写真印刷株式会社	京都市 大垣市	小林茂准教授 鈴木宣也教授 赤羽亨講師
2	地域連携	【ぎふ】ワインプロジェクト	中部電気工業株式会社 岐阜県産業技術センター 岐阜大学産官学融合本部 公益財団法人ソフトピアジャパン	岐阜市	瀬川晃講師 伊東正人研究員(2)
3	地域連携	スマートフォン・タブレット端末の 福祉分野での活用研究会	NPO法人バーチャルメディア工房ぎふ 公益財団法人ソフトピアジャパン 日本福祉大学 岐阜県情報技術研究所 岐阜本巣特別支援学校 岐阜希望ヶ丘特別支援学校 岐阜経済大学 岐阜県教育委員会など	大垣市	山田晃嗣講師
4	共同研究	電子書籍を含むITの教育利用研究会	岐阜女子大学 日本電話施設株式会社 株式会社文渓堂 公益財団法人ソフトピアジャパン NPO法人バーチャルメディア工房ぎふ	大垣市	瀬川晃講師
5	共同研究	美濃をデザインで支援するプロジェクト	美濃市 株式会社タカイコーポレーション	美濃市	入江経一教授
6	地域連携	岐阜イノベーションセンター事業(1)	日本マイクロソフト株式会社 岐阜県（情報産業課） 公益財団法人ソフトピアジャパン パソナテック（2013年度～）	大垣市	吉田茂樹教授
7	イベント	岐阜技能フェスティバル	岐阜県技能士会連合会	岐阜市	遠藤孝則助教(3)

（1）連携期間：2007年度ー 2013年度（継続中）
（2）2011年度までRCIC研究員
（3）2011年度までIAMAS助教

2012年度

	連携区分	研究名称	企業名／組織名	場所	担当教員等
1	地域連携	恵那市岩村プロジェクト	恵那市岩村振興事務所 いわむらをデザインする会議 せんしょ隊	恵那市	入江経一教授 金山智子教授
2	地域連携	生成音楽ワークショップ第7回 ジョン・ケージ、「失われた沈黙を求めて (プリペアド・トレイン)」 (1978/2012)	樽見鉄道株式会社 Make: Ogaki Meeting 2012 サントリーサマーフェスティバル	本巣市	城一裕講師 金子智太郎 (東京藝術大学)
3	共同研究	肢体不自由児のiPad使用時における 入力操作の補佐をする装置の開発	岐阜希望が丘特別支援学校	岐阜市	赤羽亨講師 岩島伊織(4)
4	地域連携	硬式野球ボール縫い目判定	ミズノテクニクス株式会社	大垣市	小林孝浩教授 山田晃嗣講師 髙井大輔(5)
5	公開講座	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 公開講座(6)	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	岐阜市	小林昌廣教授
6	受託研究	大垣まるごとミュージアム構想に基づく 歴史地図の作成研究	大垣市教育委員会	大垣市	関口敦仁教授(7)
7	受託研究	先端情報技術を用いた 「国史跡昼飯大塚古墳」の 体感型遺跡ガイダンスシステム(8)	大垣市教育委員会	大垣市	関口敦仁教授 山田晃嗣講師
8	地域連携	たるてつプロジェクト	樽見鉄道株式会社	本巣市	金山智子教授 入江経一教授
9	受託研究	家具カタログサイト構築に係るUI等の開発	飛騨産業株式会社	高山市	山田晃嗣講師
10	イベント	Make: Ogaki Meeting 2012	Make実行委員会 岐阜県 大垣市	大垣市	関口敦仁教授 小林茂准教授 八嶋有司研究員
12	イベント	おむすび博	大垣市	大垣市	八嶋有司研究員 IAMAS生

(4) 2012年度卒IAMAS生
(5) 2012年度卒IAMAS生
(6) 連携期間：2011年度ー2013年度（継続中）
(7) 2012年度までIAMAS教授
(8) 連携期間：2011年度ー2013年度

2013年度

	連携区分	研究名称	企業名／組織名	場所	担当教員等
1	共同研究 地域連携	メディア・地域・鉄道プロジェクト	岐阜県（公共交通課） 岐阜ローカル鉄道連絡会議 樽見鉄道株式会社	岐阜県	金山智子教授 平林真実教授 瀬川晃講師 城一裕講師
2	地域連携	幼稚園／保育園／幼保園のための ICTに関する研究	大垣市（情報企画課） 青墓幼保園 丸の内保育園 中川幼稚園	大垣市	小林茂准教授 James Gibson准教授
3	共同研究	豊田中央研究所共同研究[8]	株式会社豊田中央研究所	愛知県長久手市	鈴木宣也教授 赤羽亨講師
4	共同研究	ものづくりオープンメソッドプロジェクト[9]	岐阜工業高等専門学校 美濃市役所 株式会社タカイコーポレーション 株式会社喜乃紀 有限会社トリガーデバイス	美濃市	小林茂准教授 吉田茂樹教授 藤原広美研究員
5	地域連携	美濃のいえプロジェクト	美濃市役所 美濃デザインチーム 県立森林文化アカデミー	美濃市	金山智子教授 入江経一教授 小林昌廣教授
6	地域連携	アートフルタウン大垣2013 「進展―IAMAS work in progress―」	大垣市（商工観光課）	大垣市	小林昌廣教授 IAMAS生
7	地域連携	IAMASイノベーション工房［f.Labo］	岐阜県（地域産業課・情報産業課） 公益財団法人ソフトピアジャパン 有限会社トリガーデバイス 合同会社わふう	大垣市	小林茂准教授
8	連携協定	株式会社十六銀行と産学連携に関する 連携協定を締結	株式会社十六銀行	岐阜市など	
9	共同研究	市民工房を拠点として活用したデジタルファブ リケーションの可能性に関する研究	ブラザー工業株式会社	愛知県名古屋市	小林茂准教授 山下健研究補助員
10	共同研究	オープンイノベーションビジネスを創出する コミュニティづくりに関する共同研究	富士通株式会社	神奈川県川崎市	小林茂准教授
11	受託研究	ジ・アート・オブ・ライフ・プロジェクト	株式会社ルネット	大垣市	赤松正行教授
12	受託研究	大垣駅北口広場プロジェクションマッピング	大垣市（都市計画課）	大垣市	平林真実教授 IAMAS生
13	学校連携	「岐阜大学フェア2013」公開授業での コンテンツ協力	岐阜大学（工学部）	岐阜市	小林孝浩教授 平林真実教授 IAMAS生

	連携区分	研究名称	企業名／組織名	場所	担当教員等
14	イベント	岐阜おおがきビエンナーレ2013	岐阜県 大垣市 文化庁	大垣市	安藤泰彦教授 八嶋有司研究員
15	人材育成 展覧会	アート/メディア/身体表現に関わる専門スタッフ育成事業 逆シミュレーション音楽の世界 （平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」）	文化庁 岐阜県美術館 山口情報芸術センター［YCAM］ 愛知芸術文化センター文化情報センター	岐阜市 大垣市 山口市 名古屋市	三輪眞弘教授 前田真二郎准教授 赤羽亨講師 城一裕講師
16	展覧会	ぎふAR美術館	岐阜県（情報産業課） 間チルダ	大垣市	赤松正行教授
17	ワークショップ	ex-Workshop展 （平成25年度文化庁メディア芸術人材育成支援事業）	Generative Idea Flow	東京都 大垣市など	赤羽亨講師
18	ワークショップ	データビジュアライゼーション研究会	公益財団法人ソフトピアジャパン	大垣市	星卓哉情報支援 専門職員

（8）連携期間：2012年度－2013年度
（9）連携期間：2012年度－2013年度（継続中）
※全リストの教員の役職は2014年2月現在のものです。

IAMAS産業文化研究センター（RCIC）スタッフ

2011年度

RCICセンター長	入江経一
研究員	伊東正人　岡本ゆかり
情報支援専門職	河村陽介
スタッフ	八嶋有司　伊藤友哉　鈴木光　高橋あゆみ

2012年度

RCICセンター長	入江経一
教員	金山智子
研究員	伊東正人　岡本ゆかり　藤原広美
情報支援専門職	八嶋有司

2013年度

RCICセンター長	金山智子
教員	小林茂
研究員	八嶋有司　藤原広美
情報支援専門職	星卓哉

IAMAS Annual Report 2011 ―2013
―産業・地域連携報告―

2014年2月発行

監修　金山智子
編集　瀬川晃　藤原広美
デザイン　小島邦康（Artical inc.）
撮影協力　八嶋有司
発行　IAMAS産業文化研究センター（RCIC）
印刷　サンメッセ株式会社

IAMAS産業文化研究センター
〒503－0014
岐阜県大垣市領家町3－95
www.iamas.ac.jp
0584-75-6606

※2014年4月より下記に移転：
〒503－0807
岐阜県大垣市今宿6丁目52－18 ワークショップ24

IAMAS

表紙は3年間をまとめゴールドの多角形で表現され、本紙では2011年度（3プロジェクト）・2012年度（5プロジェクト）・2013年度（7プロジェクト）と年度別に色分けされている。プロジェクトごとにどのように関わり進めたかが簡潔にまとめられ、わかりやすく写真を多用している。

The front cover of this booklet is designed with gold polygons, and the color is meant to represent a total of three years. In the booklet itself, projects years—2011(3projects), 2012 (5projects), and 2013 (7projects)—are sorted by a desgnated color for each year. The booklet is designed to concisely present each project’s connection and process, and uses plenty of photographs to help make the projects easier to understand.

形態	無線綴じ製本
サイズ	210mm x 297mm
コンテンツ	連携成果の紹介 （2011-2013） 連携事例+IAMAS関連イベント（共同研究、受託研究、地域連携、イベント、公開講座、学校連携、人材育成、展覧会、ワークショップ）

Form	Adhesive binding
Size	210mm x 297mm
Contents	Joint research reports (2001-2013) List of research results + IAMAS related events (joint researches, contracted researches, local collaborations, events, open lectures, shool collaborations, human resource development, exhibitions, and workshops)

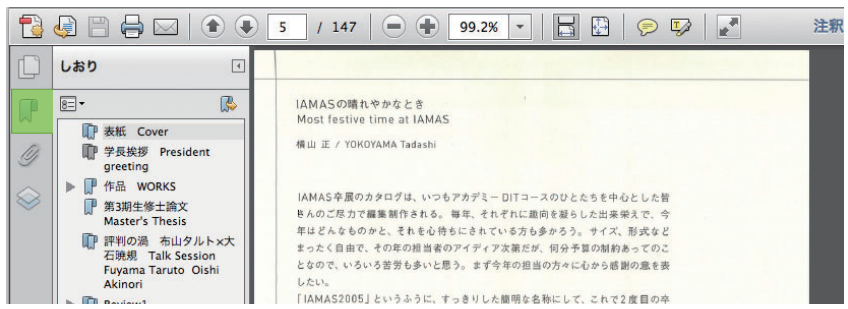
これまでIAMASで発行されたカタログ類をIAMASBOOKSとして再編成し、電子書籍化しました。
Catalogues previously published at IAMAS have been reorganized into IAMASBOOKS and turned into digital books.

使用方法｜How to use

PCで閲覧｜Via PC

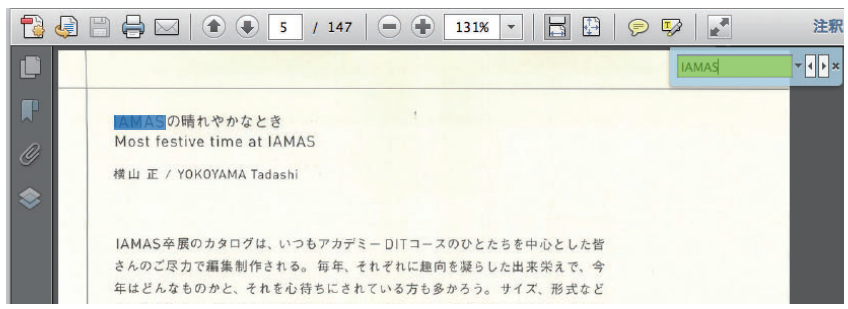
①目次の使い方
・Adobe Readerの場合
「しおり」機能を使って目次としてご利用いただけます。
・Apple プレビューの場合
「サイドバー」を目次としてご利用いただけます。

How to use table of contents
- For Adobe Reader
Access as table of contents using the“guidebook”function.
- For Apple Preview
Access the“sidebar”as the table of contents.



②検索機能で該当するキーワードや名前などを
見つけることができます。
・Adobe Readerの場合
「編集＞簡易検索」もしくはコマンド＋F
・Apple プレビューの場合
検索窓に入力してください。

Keywords or names can be found using the search function.
- For Adobe Reader
Edit → Simple Search OR Command + F
- For Apple Preview
Type into the search window.



iPadで閲覧｜Via iPad

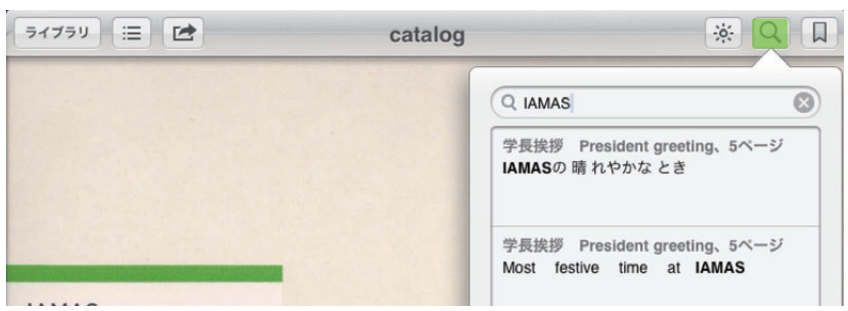
※iBooksでのご利用を推奨しています。
※Use via iBooks is recommended.

①目次の使い方
・メニューのリスト表示から目次をご利用いただけます。

How to use table of contents
- Access from the list display in the menu.

②検索機能で該当するキーワードや名前などを
見つけることができます。
・メニューの検索アイコンから検索いただけます。

Keywords or names can be found using the search function.
- Search from the search icon in the menu.



Android端末で閲覧｜　For Android

※閲覧する端末、アプリケーションによっては目次機能が正しく動作しない場合がありますのでご了承ください。
※Please be aware that depending upon the terminal/application used, there are times when the table of contents function will not work correctly.

IAMAS BOOKS

IAMAS 2013 GRADUATION EXHIBITION CATALOGUE

発行日 Issue	2014年10月再編 October .2014
編集 Editor	藤原広美 FUJIHARA Hiromi
撮影 Photography	八嶋有司 YASHIMA Yushi
翻訳 Translator	藤原広美 FUJIHARA Hiromi
監修 Supervisor	瀬川晃 SEGAWA Akira
発行 Publisher	IAMAS 産業文化研究センター IAMAS Research Center For Industrial Culture

IAMAS
503-0006
岐阜県大垣市加賀野4丁目1-7

4-1-7 Kagano , Ogaki
Gifu 503-0006, Japan

www.iamas.ac.jp

CopyRight IAMAS 2014